

福益さんの家は笠間さんの前の小道を入って行く、祖父と親戚筋であつたのか、よく使いにやらされた、親父さんは少々足が悪かつたけれどいつも親切であつた記憶である。

鶏卵を、使いのお手間に貰つた。

吉田さんの家は、何処か見当がつかないが、腕のいい大工さんで私の里の常用の、大工さんだつたのだろう、昭和初期に建てた土蔵も、氏の建築ではなかつたらうか。

子供の時代の玩具に、獅子頭があつたが、敷居にする木屑をうまく使って作つたもので、頭に、馬の尻尾の毛を植えてあつたりして、兄弟次々に使って獅子舞の真似をしたことが懐かしい。

また、良く出来て骨董品にしたいような自在鍵は、大抵吉田さん作品であつた。

米沢の家の祭すしを作る桶も、古いものであるが、氏の作品である。

「おいつあ」と呼んだ中田さんは、優しいお婆さんが、駄菓子を売つていた、飴玉(ひなかだま)と呼んだが、大きな飴玉で一つ二銭であつたと記憶している。

口の中に半日も、舐めておれるほど大きな飴玉であつたからである。

高塚さんは「のつちよんさ」の屋号で、一時期、氷水を飲ましてくれた店の記憶がある。

また、一パイ飲み屋もしていなかつたか、記憶が甚だ不鮮明である。

朝本さんは、醤油の醸造工場であつた。

優しい御かみさんは、吉岡さんから嫁に行かれた婦人で、美しい、淑やかなひとであつたし、工場の辺りは、私たち、悪童の遊び場所であつた。

